

知と交流の拠点施設整備事業費

(新図書館等拠点施設整備)

(債務負担行為)

1. 目的

知識や情報、人に出会える滞在型図書館を核とし、市民の創造・交流活動の場となる多目的ホール、カフェ等を組み合わせた、「知」と「交流」の拠点施設の整備を進める。

2. 内容

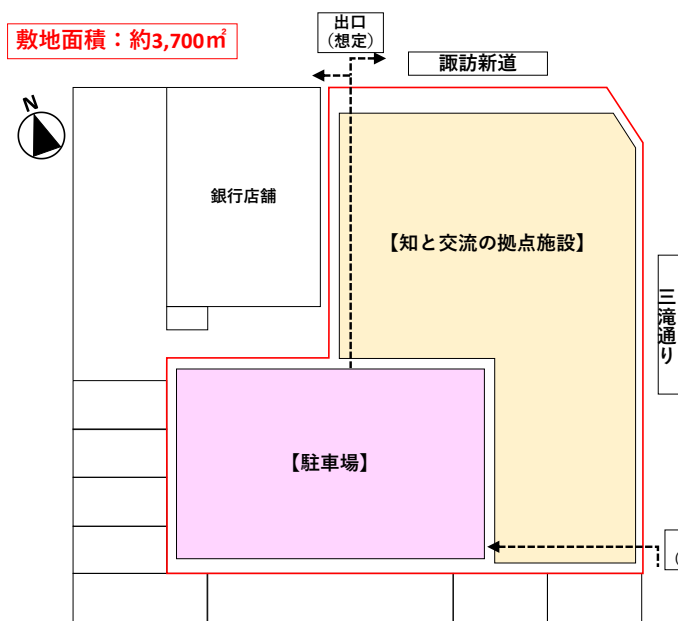
中心市街地の市役所北側民有地において、滞在型の「知」と「交流」の拠点施設整備に向け、市民意見をいただきながら、建物の配置、間取り、外観、構造、設備などの基本的な内容を図面としてとりまとめる基本設計を行う。

基本設計に合わせて実施する市民ワークショップについては、スターアイランド跡地での市民ワークショップ等でいただいた新図書館に関する市民意見に加えて、新たに多目的ホールなど図書館以外の機能を中心に市民意見をいただき、多目的ホールやワークショップスペースなど交流機能の使い方等について、基本設計に反映していく。

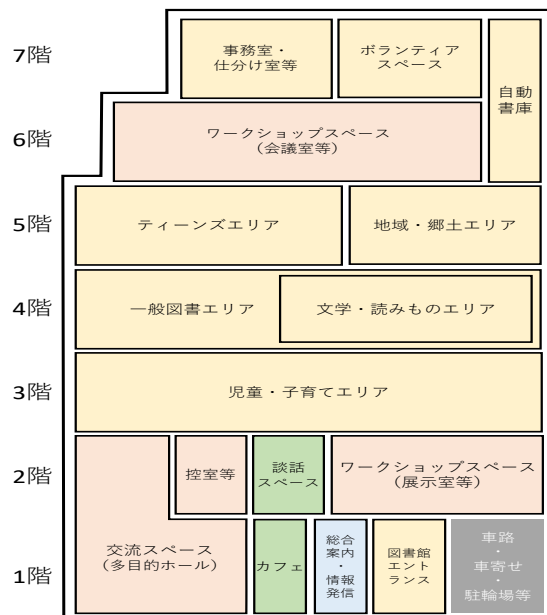
加えて、令和7年9月12日の記録的大雨を受けて、建物の基本設計に合わせて、拠点施設からの雨水の流出抑制方策についても検討を行う。

なお、令和8年度の基本設計完了に向けて、令和7年度から基本設計者の選定手続きを行う必要があることから、債務負担行為を計上する。

【建物配置のイメージ】



【フロア構成のイメージ】



※建物配置・フロア構成については、基本計画（平成 30 年策定）の想定規模を基に配置したイメージであり、今後進める基本設計の中で内容を固める。

※2階のワークショップスペース（展示室等）については、活動の規模に応じて間仕切りを変更できる展示室のほか、多目的ホール（発表の場）と一体となった、音楽・ダンス・演劇など様々な活動の練習の場を設けるものとしている。

※6階のワークショップスペース（会議室等）については、知の拠点としてグループでの学習等に利用できる研修室・学習室のほか、市民が企画する講座等の開催場所や準備段階でのミーティングに利用できる、会議室等を設けるものとしている。

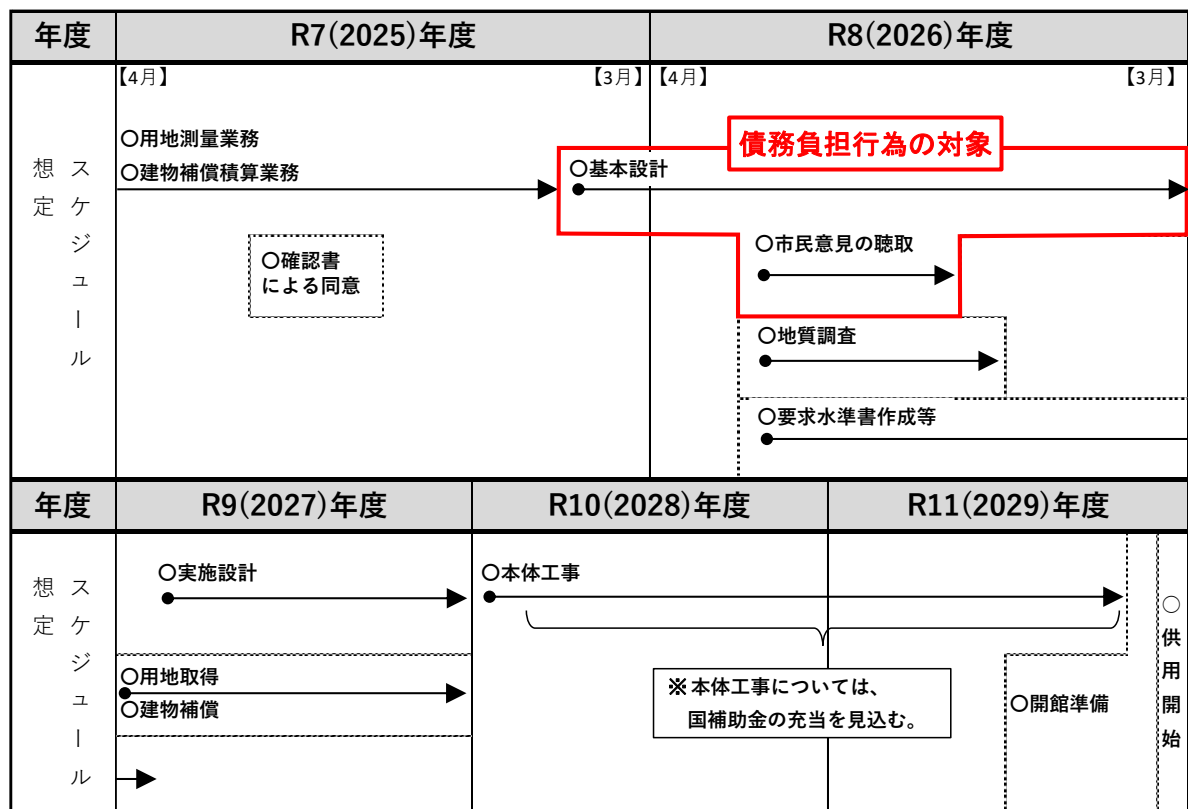
※なお、ワークショップスペースの規模（面積）については、他の公共施設との使い分けや役割分担を踏まえて、今後、基本設計を進める中で、基本計画の想定規模から見直しを検討する。

3. 債務負担行為（追加）

- ・知と交流の拠点施設整備基本設計業務委託費
限度額 271,000千円
期 間 令和7年度から令和8年度まで

4. スケジュール

- ・各地権者等が、知と交流の拠点施設整備事業にご協力いただくに際し、「収用等の課税の特例（5,000万円控除等）」の適用に向け、三重県等の関係機関との協議を進める。
- ・この特例を適用するための協議には、「事業計画を示した各階平面図、立面図等」が必要となることから、今後、基本設計を進め関係機関との協議が整った後に、正式な買取申し出を行い、用地取得契約を結ぶこととなる。



※各工程が最短で進んだ場合

以下については、9月補正予算参考資料（第6号）（追加分）より再掲 ※下線部については今回追加

5. 知と交流の拠点施設（新図書館等拠点施設）整備について

（1）各地権者等との交渉状況

- ・各地権者や建物所有者に対し、用地買収費や借地料、建物等補償費の概算金額を示した上で、事業地内で対象となる9名の地権者等全員から事業協力の意向を「確認書」としていただいた。
- ・借地の意向が示されている一部土地（約1,950㎡）については、定期借地ではなく普通借地をお願いしており、当初設定する借地期間を50年以上、借地料については年額約800万円で協議を進め、了承をいただいている。
- ・令和7年9月12日の大雨に伴い、9月定例月議会での関係予算の撤回を受けて、見直した事業スケジュールを地権者等全員に説明し、協力の意向に変わりがないことを確認している。



（2）概算総事業費について

- ・知と交流の拠点施設本体と駐車場については、図書館システムやサイネージ、家電や消耗品等の備品購入費を除き、120億円～150億円の範囲で整備していく。
- ・用地買収費については、5筆の合計約1,750㎡で約5.2億円、建物等の補償費については、建物4棟の移転補償費と工作物の補償費等の合計で約1.5億円を見込んでいる。

○概算総事業費については、建物整備費（120億円～150億円）に、用地買収費と建物等補償費（約7億円）を合わせた127億円～157億円で事業を進めていく。なお、借地料については年額約800万円を見込んでいる。

- ・また、自動車文庫の拠点及び閉架書庫（利用者に電子で提供できる資料の原本等の保管場所）については、別途、確保することとしており、整備として約1.2億円程度、現図書館の除却費用3.8億円程度を見込んでいる。

※近年では、工事費等が高騰しており、今後の動向については予測がつかない状況であるため、基本設計を進める中でコスト縮減を努めながら具体的に精査し、その時点での建設物価等を反映していくものとする。

※また、イオングループ様より、「イオングループ発祥の地とも言える、岡田屋呉服店跡地に近接した場所で整備される施設のコンセプトに賛同し、地域の生涯学習、文化の発展に貢献していきたい。」旨の意向を伺っており、知と交流の拠点施設の整備にあたり、10億円の寄附をいただけることとなっている。

(3) 多世代交流機能について

①知と交流の拠点施設における導入機能

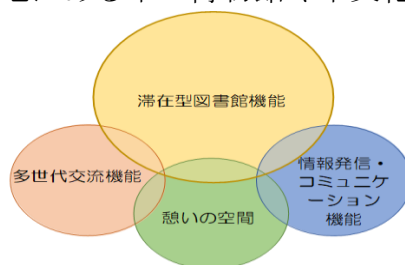
- ・「新図書館のコンセプト」、「導入機能と規模」については、中心市街地拠点施設整備基本計画（平成30年策定）でとりまとめた整備方針を踏まえるとともに、駐車場を併設する。

○新図書館のコンセプト

- ・ICTにも対応し、日常の居場所となる全世代を対象とした※滞在型図書館（※滞在型図書館：単なる図書の貸し借りの場ではなく、読書などで本を楽しみ、調べものや生涯学習もできる、ゆとりある空間を持ち、また、新たな情報や人に出会え、子どもから高齢者までの多世代が交流できる図書館。）

○機能配置のイメージ

- ・「滞在型図書館機能」を核とし、「多世代交流機能」「情報発信・コミュニケーション機能」、「憩いの空間」が融和し、各機能間の相乗効果を高める施設を目指すとともに、中心市街地にある市立博物館や市文化会館等との連携やすみ分けを行う。



○導入機能と規模

- ・現在の候補地（市役所北側民有地）における各機能の規模については、以下のとおり想定している。

| | |
|--|-------------------------|
| i) 「滞在型図書館機能」 | : 6,800 m ² |
| <ul style="list-style-type: none">・一般成人エリア・子どもと子育てエリア・ティーンズエリア・資料・情報（郷土）エリア | |
| ii) 「多世代交流機能」 | : 3,300 m ² |
| <ul style="list-style-type: none">・交流スペース（発表の場、イベントの場）：多目的ホール等・ワークショップスペース（練習の場）：会議室等 | |
| iii) 「情報発信・コミュニケーション機能」 | : 200 m ² |
| <ul style="list-style-type: none">・シティプロモーションスペース：地域情報等・市民団体の紹介スペース：活動発信等 | |
| iv) 「幅広い市民が気軽に立ち寄れる憩いの空間等」 | : 400 m ² |
| <ul style="list-style-type: none">・カフェスペース・休憩、談話スペース | |
| ○ その他共用エリア等 | : 2,450 m ² |
| 合計 | : 13,150 m ² |

| | |
|---------|-----------|
| 「併設駐車場」 | : 200 台程度 |
|---------|-----------|

②交流スペース（多目的ホール等）について

○多目的ホールの位置付け

- ・多目的ホールについては、平成 30 年の基本計画において、市民が企画する音楽、ダンス、演劇、講演など様々な創造活動の発表などの場として位置付けていた。
- ・スターアイランド跡地では、民間施設の共有や、構造等の制約からコストが過大になることから、多目的ホールの整備は難しかった。
- ・今回の候補地では、市単独での整備となるため、多目的ホールを整備することが可能となり、総合計画の推進計画事業である小規模ホールとして整備していく。

○総合計画に位置付けた小規模ホールについて

- ・長年、文化活動団体や市政アンケートから、市民グループが利用しやすい規模のホールを望む声が寄せられており、市民の多様で活発な文化活動を促し、文化を創造する環境づくりを推進するため、小規模ホールについては、音楽や演劇、舞踊等の舞台公演に必要な音響等の舞台装置を備えた、市民グループが利用しやすい規模で整備していく。
- ・小規模ホールの整備によって、既存の四日市市文化会館第 1 ホール（約 1,800 席）、第 2 ホール（約 600 席）と、公演の規模に応じた施設の使い分けも可能となる。
- ・拠点施設における多目的ホールを、総合計画に位置付けた「市民グループが利用しやすい規模のホール」として活用できるよう、今後、機能面等の整理を行いながら検討を進めていく。

○多目的ホール等で想定する規模

- ・多目的ホールの想定規模については、現時点では下表のとおり想定しているが、詳細については、今後予定している、多目的ホールなどの図書館機能以外を中心とした市民ワークショップでの意見も取り入れながら、フレキシブルな使い方ができるよう、基本設計を進めていく。

| 機能 | 階数 | スペースの活用例 | 想定規模 |
|---------------------|-----|---|--|
| 交流スペース （多目的ホール等） | 1 階 | ○演劇・音楽コンサート 等で利用可能な劇場形式での公演 ○平土間形式でのイベント ○総合受付、倉庫等 | ・公演時には、200 人～300 人程度の観客席、舞台を持つホール（約 1,000 ㎡） ・観客席を収納することで、自由なレイアウトで使えるフラットなスペース ・総合受付、倉庫等（約 300 ㎡） |

○多目的ホールの配置の考え方について

- ・拠点施設全体のフロア構成の考え方として、令和 5 年度にスターアイランド跡地を候補地として実施した市民ワークショップも踏まえ、「基本的には下から上に向かって、動（賑やか）→静（穏やか）になっていく流れ」を踏襲することとしており、多くの人が集まり賑わいにつながる多目的ホールについては、1 階に配置することとしている。
- ・加えて、災害等の非常時には大勢の観客の避難が発生することや、ホールの運営上、開演時・閉演時に観客が集中することから、観客の安全確保や、図書館利用者の移動に支障とならないよう、1 階に多目的ホールを配置することが望ましいものとする。
- ・また、多目的ホールを上層階に配置する場合、資器材の搬出入のため、利用者が移動するエレベーターとは別で、大型の荷捌き用エレベーターの設置が必要となり、コスト増加につながる。

③ワークショップスペース（会議室等）について

○会議室等の位置付け

- ・平成 30 年の基本計画において、市民が企画する体験ワークショップや展示活動に利用できる展示室、音楽、ダンス、演劇など様々な活動の練習室のほか、講座やミーティング、グループでの読書や学習に利用できる会議室等を設置する方針としていた。
- ・現時点では、基本計画に位置付けた展示室や練習室、会議室等で活用できるスペースの設置により、幅広い世代の交流を促すとともに、グループでの学習や作業等の参加・体験を通じ、双方向の学びや創造の実現につなげることをしている。

○ワークショップスペースで想定する規模

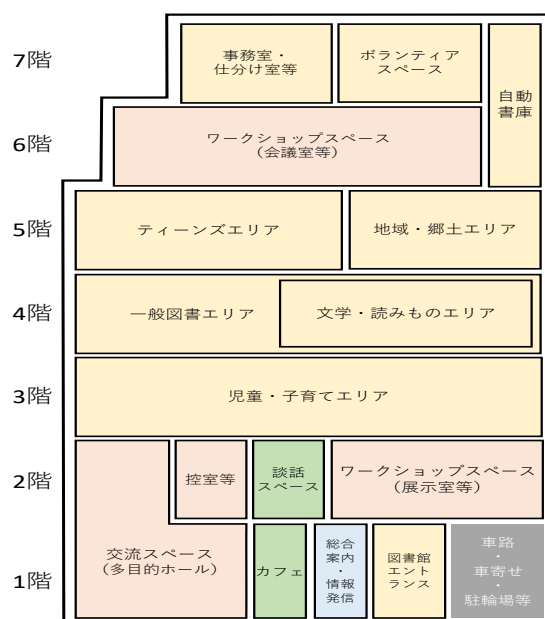
- ・ワークショップスペースの想定規模については、現時点では下表のとおり想定しているが、詳細については、今後予定している、図書館機能以外を中心とした市民ワークショップでの意見も取り入れながら、フレキシブルな使い方ができるよう、基本設計を進める。

| 機能 | 階数 | スペースの活用例 | 想定規模 |
|---------------------------|-----|-----------------------------|--|
| ワークショップ スペース (会議室等) | 6 階 | ○会議室、教室、研修室、 学習室、実習室等 | ・ 会議室等 (約 1,300 m ²) |
| | 2 階 | ○展示室 ○演劇・音楽・ダンス等の 練習室 | ・ 間仕切り変更可能な展示室 (約 500 m ²) ・ 練習室 (約 200 m ²) |

○ワークショップスペースの配置の考え方について

- ・拠点施設全体のフロア構成の考え方については、令和 5 年度にスターアイランド跡地を候補地として実施した市民ワークショップも踏まえ、「基本的には下から上に向かって、動（賑やか）→静（穏やか）になっていく流れ」を踏襲することとしている。
- ・このため、2 階のワークショップスペースについては、多くの人が集まり主催者と来場者が直接交流するような体験型スペース、演劇・音楽・ダンス等の練習スペースとして配置する方針としている。
- ・なお、展示室の間仕切りを変更可能とすることで、様々な用途に応じた活用ができるよう、フレキシブルな使い方についての検討を進める。
- ・一方、6 階のワークショップスペースについては、市民活動の各種講座や打合せ、グループワークなど、閉鎖的な空間での学習や作業のスペースとして配置する方針としている。
- ・また、これらのワークショップスペースについては、図書館部分のように本棚が並ばないことから、地震や津波、洪水など災害の種別に応じ、災害から命を守るために緊急的に避難する「指定緊急避難場所」としての活用を前提に、基本設計を進める。

【フロア構成のイメージ】



※フロア構成については、基本計画（平成 30 年策定）の想定規模を基に配置したイメージであり、今後進める基本設計の中で内容を固める。

(4) 市民ワークショップについて

- 令和5年度に行った市民ワークショップについては、下表のとおり図書館部分に期待する機能や使い方等を主な検討内容として、高校生や子育て世代をはじめ、対象者の区分ごとに2回ずつ合計6回開催し、延べ104人の方々から幅広いご意見をいただき、基本設計に反映した。

| 回 | 日付 | 対象者 | 主な検討内容 |
|---|---------------------|--------------|---|
| 1 | 令和5年 7月17日(月・祝) | 一般 | ・フロア構成(動線、吹抜けの有無、児童・子育て・ティーンズの位置、学習室等) |
| 2 | 令和5年 8月10日(木) | 高校生 | ・フロア構成(動線、吹抜けの有無、児童・子育て・ティーンズの位置、学習室等) ・ティーンズエリアのあり方 |
| 3 | 令和5年 9月12日(火) | 子育て中 の人優先 | ・フロア構成(動線、吹抜けの有無、児童・子育て・ティーンズの位置、学習室等) ・子育てエリアのあり方 |
| 4 | 令和5年 10月28日(土) | 子育て中 の人優先 | ・遊具等の必要性 ・フロアデザインの方向性 |
| 5 | 令和5年 10月28日(土) | 高校生 | ・学習スペースのあり方 ・ティーンズコーナーへの要望 ・フロアデザインの方向性 |
| 6 | 令和5年 11月23日(木・祝) | 一般 | ・フロアデザイン案に対する追加要望、見直し要望等 |

- 今回の基本設計にあわせて実施する市民ワークショップについては、スターアイランド跡地での市民ワークショップ等でいただいた新図書館に関する市民意見に加えて、新たに多目的ホールなど図書館以外の機能を中心に市民意見をいただき、多目的ホールやワークショップスペースなど交流機能の使い方等について、基本設計に反映していく。